研究結果報告書

概念化・主観性による中日言語の認知言語学的対照研究

所属：深圳職業技術学院 外国語学院 日本語科

役職：教授

氏名：張 継文

伝統言語学の意味論は論理学に依存し意味を現実世界に求めるのに対して、認知言語学では意味を人間の捉え方に求めることになっている。言語形式からでなく話し手の認知の営み、事態を自らとの関連で主体的に意味づけすることから出発し、言語表現の主体である人間の概念化を研究し、その言語現象の背後の原因を究明する。

認知言語学において、言葉の意味は、認知主体と外界との相互作用に基づく概念化であると規定されている。概念が言語化される過程は概念化である。概念化により形成された概念を他者に伝える時には、何らかの形式で「話者」自身の「主体性」が伝わってくる。言語構造を純粋な客観的構造と見なさずに、人間の持つ一般的な認知能力が何らかの形で反映されるものと見なす。

本研究は日本語の言語表現に見られる主体性をめぐり、人間の立場、判断、態度、物事の捉え方などの視点から、日本語で反映されている人間の主体性について分析してみた。その上で、話者の身体性、言葉の多義性、概念領域の対応などの視点から、概念化の動態性について検討してみた。また、中日言語の事態の把握について、「主観的把握」「客観的把握」の視点から日本語と中国語を対照研究し、日本語話者の場合は、事態を主観的に把握する傾向があるのに対して、中国語話者の場合は、事態を客観的に把握する傾向があることを論じていた。

このように、言葉は認知の反映であることと、言葉は人間の認知に深く関わっていることを認めた上で、認知言語学では中日言語表現の違いを説明する方法、及び日本語言語表現の背後の成因などを究明する方策を示している。主体性、概念化こそが言語の本質に迫るという立場である。日本語の言語研究及び中日言語表現の対照研究へ、認知言語学の理論を応用していくべきではないだろうかを探ってみた。

研究結果の公表について

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・会場等）

1. 「認知視点下の日本語語義研究」、張継文、『中国大学日语专业国家标准制定国际研讨会』、2015年5月30日～30日、天津外国語大学第二分科会場
2. 「概念化動態性視角下の日本語語義認知研究」、張継文、『第五届国际认知语义学研讨会』、2015年6月10日～13日、西南大学会場

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

1. 「日语语义的概念化与动态性研究」、張繼文、『深圳职业技术学院学报』（2）、2015年4月
2. 「認知言語学による中日言語表現の対照研究——言語表現に見られる主体性をめぐって——」、張繼文、『日本语言研究论文集』、世界图书出版公司、2016年3月
3. 「概念化动态性视角下的日语语义认知研究」、張繼文、『外语研究』、2016年

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）